

**令和2年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力  
「シシヤン市農業機械研修センター設立計画」及び  
「アラクサヴァン村灌漑・ポンプ設備整備計画」署名式の実施**

令和3年3月18日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「シシヤン市農業機械研修センター設立計画」(贈与限度額:69,971米ドル(7,696,810円))及び「アラクサヴァン村灌漑・ポンプ設備整備計画」(贈与限度額:79,401米ドル(8,734,110円))に対する署名式がアルメニア経済省にて行われました。本式典には、山田淳在アルメニア日本国大使、マネ・タパルツヤン経済省農業案件実施局次長、被供与団体よりヴァルダン・ウルチャン・アルメニア国立農業大学学長、リアナ・イエサヤン慈善公共団体「ユーラシア」代表等が出席しました。

「シシヤン市農業機械研修センター設立計画」は、アルメニア国立農業大学のシシヤンキャンパス内に農業機械研修センターを設立するもので、本件実施により、同キャンパスに通う学生及び同市の農家の計250人が裨益する見込みです。また、「アラクサヴァン村灌漑・ポンプ設備整備計画」は、同村に新しい灌漑設備を整備するもので、64世帯約240人が本件の恩恵を受ける見込みです。

式典冒頭、タパルツヤン次長は、シシヤン市における農業機械研修センターの設立は、農家及び学生が農業に関するより高度な知識と技術を習得することを可能にするものであると述べました。また、新しい灌漑システムの整備により、アラクサヴァン村の農業生産性及び住民の生活水準の向上が期待されると述べ、両案件の重要性を強調しました。

これに対し、山田大使は、農業セクターはアルメニアの経済及び食料安全保障に重要な役割を果たすとともに、両案件の成功は両自治体のみならず国全体にも大きな影響を与え得ると述べました。また、この二つの案件の裨益者は異なるものの、地方における持続可能な開発を促進するとともに、人々の生活の向上を図るという共通の目的を掲げており、日本政府が推進している「人間の安全保障」の概念にも合致するものであると強調しました。

また、「シシヤン市農業機械研修センター設立計画」及び「アラクサヴァン村灌漑・ポンプ設備整備計画」の両被供与団体代表は、山田大使及び日本政府に対し、今回の支援が実現したことへの謝意を表明するとともに、円滑な事業の実施に向けて最善を尽くすと述べました。

その後、山田大使とウルチャン学長が「シシヤン市農業機械研修センター設立計画」の贈与契約に、また、山田大使とイエサヤン代表が「アラクサヴァン村灌漑・ポンプ設備整備計画」の贈与契約にそれぞれ署名しました。



タパルツヤン経済省  
農業案件実施局次長によるスピーチ



山田大使によるスピーチ



贈与契約に署名する山田大使とウルチャン・  
アルメニア国立農業大学学長



贈与契約に署名をする山田大使と  
イエサヤン慈善公共団体「ユーラシア」代表



式典の様子



式典の参加者